

令和7年度 旭川未来会議2030 観光分野 会議録

1 開催日時 令和7年8月7日（木）午後6時から午後7時10分まで

2 開催場所 嵐山公園センター ホール（上川郡鷹栖町嵐山）

3 出席者（参加者） ※敬称略、五十音順
北の嵐山連絡協議会
黒蕨亮太、菅井淳介、得永光利、板東光太郎
あさひかわ嵐山ビジターセンター
出羽寛
北邦野草園
堀江健二
嵐山公園センター
笠間邦裕
澤村尚浩建築計画室
澤村尚浩

4 出席者（市側）
今津市長
嘉屋観光スポーツ部DMO担当部長
（運営事務局）
観光課 上田観光課長、大川補佐
（総括事務局）
広報広聴課 吉田広報広聴課長、長澤広報係長、吉岡

5 会議の公開・非公開 公開

6 傍聴者 3名（市民：3名）

7 会議の概要

(1) 開会

(2) 市長挨拶

（今津市長）

今日は嵐山地域の皆様にお集まりいただきありがとうございます。

未来会議については、過去には大きな規模で分野毎に意見をいただいていたが、今

回はより膝を詰めて親しく皆様の意見を伺いたいとの思いから、このような場を設けさせていただいた。陶芸や茶道をはじめ様々な地域の文化、伝統が根付いているのが嵐山地域と認識している。一方で交通面の課題などもあり、これからの嵐山をどういう方向に進めていくか、皆様の想いもあると思うので、今日はしっかりとお話を伺いたい。

〔事務局説明〕

嵐山地区の未来や地域資源を生かした観光振興・地域活性化について、各団体の取組やアイデアの説明の後、意見交換を行う会議の流れを説明した。

(3) 進行役の決定、

進行役を得永氏に決定した。

(4) 自己紹介

出席者の簡単な自己紹介の後、各団体の取組概要の説明に移った。

(5) 嵐山地区連絡会から活動等についての説明

各団体の参加者から活動等について概要説明を行った。

ア 北の嵐山地区観光連絡協議会について

1970年から自然発生的に陶芸、染め物、木工、ガラスなどの工房が旭岡に構えられた。当初は窯元が多く「嵐山陶芸の里」としてスタートしたが、カフェや茶道など多方面の活動が集まったので、2010に現在の「北の嵐山観光連絡協議会」に名称を変更、現在は12の工房や店舗が旭岡に点在し活動を行っている。

イ あさひかわ嵐山ビジターセンターについて

ビジターセンターは36年前、嵐山の開発に対して旭川観光協会、嵐山ビジターセンター、東海大学橋場ゼミナールにより3つの提言が出されたことから始まり、自然の観察・保護を基本として活動を実施。単に提言する集団ではなく、活動する集団として拠点となるビジターセンターを自分たちで設置し、自然体験活動・交流会を行っている。

ウ 北邦野草園について

北邦野草園は「憩いの場」、「教育の場」、「調査・保全の場」の三つを柱とし活動を実施。

一つ目の「憩いの場」は施設の維持管理や案内、展示がメインとなるが、安全対策・保全対策として夏はヒグマ・冬はエゾシカ対策に労力を割かざる得な

い状況。

二つ目の「教育の場」は、自然に親しむ場として観察会や団体の受入れを随時行っており、小講演会やハンドブックの製作販売も実施している。

三つ目の「調査・保全の場」は、この地区の希少野生植物の保全、調査等を行っている。展示だけではなく、希少植物の研究の場として、フィールドワークにも活用してもらっている。

エ 各団体の活動に対する質疑

(市長)

ビジターセンター、北邦野草園、北の嵐山の活動は魅力的だ。本市は医療、食、家具などの強みがあるが、嵐山の自然や文化の魅力もあることを再認識した。担い手の問題はありますか？

(参加者)

ビジターセンターは36年運営しており、運営委員は高齢化しているが、最近では若手も加入して少し活気づいてきた。

(参加者)

北の嵐山は60歳以上が多く若手は少ない。特に作り手の後継問題は難しい状況である。

(6) 嵐山地区運営連絡会より未来に向けたアイデアについて

(参加者)

未来会議の開催に当たり、当初は北の嵐山観光連絡協議会に要請があったが、このエリアは3者が一緒になって考える必要があるという思いから、3者が集まり「嵐山地区連絡会」という組織を立ち上げた。今回は入口ではあるが、3者で事前に集まって話し合う場を持った中で、出てきたアイデアをまとめて発表する。

※資料「令和7年度旭川未来会議2030」に基づきアイデアの発表が行われた。

〔以下、資料の補足説明〕

■主な対象者

地元住民は旭川市民が誇るべき場所として嵐山を認識してほしいという思いから、また、学校関係者は教育分野に活用してほしいという思いから対象とした。

■体験型観光の概要

チセ泊キャンプやアイヌ料理体験は博物館との協力、連携が必要と考えている。

歴史、文化ガイドツアーにおける縄文文化やアイヌ文化の体験は、整備も不十分であり、どう魅せるかが課題と認識している。

特別体験コースとしてカヌー体験が可能なのも含め、DMOからアドバイスが欲しい。

地域を支える観光拠点整備については、長く滞在していただくことで地域の魅力を体験してほしいという思いがある。

【その他喫緊の課題】

市の案内表示が景観を損ねているため更新をお願いしたい。

静望町内会だけを見ても、デザインに統一感が無い。行政の様々なセクションが対応するためにこうなったと思うが、是非、市内全体のデザインを統括するセクションを設置し、統一感を図るべきだ。

(観光課長)

写真にある案内表示については、所管課を確認し対応したい。

(7) 意見交換

(嘉屋DMO担当部長)

DMOは観光の切り口から1市8町の地域活性化を図る組織。

2023年、市長がアドベンチャートラベル(以下「AT」という。)を推進するため、北海道で開催されたアドベンチャートラベルワールドサミット(ATWS)に参加。DMOはツアーオペレーターとしてこのエリアの日帰りツアーを企画し、川村カ子トアイヌ記念館訪問の後、北邦野草園から展望台へ登るハイキングツアーを設定した。

アイヌ文化をキーワードとした体験や嵐山のハイキングが欧米豪には人気があり、ハードなアクティビティではない「丁度良いパッケージ」という評価を得た。

DMOとしてATを推進する上で、この地域の力もお借りしたいと考えている。

カヌー、サイクリングの要素は検討の価値がある。オサラッペ川のカヌー体験は、水量の問題もあるので検討が必要となる。

チセの宿泊体験は面白いと思う。過去、可能性を探ったことはあるが、笹の確保や防火、建築物として法的な面でハードルが高く断念した。一級建築士の方もおり、地域の方とひとつひとつハードルを乗り越えていけるならば、検討する価値はある。

(参加者)

ビジターセンターが行っているソフトなATやエコツアーが適していると考えている。

〔嵐山の特徴を資料で簡単に説明した後〕

嵐山は動物や植物の宝庫で、生物多様性を伝えることが出来る貴重な存在。また、縄文文化の遺跡やアイヌ文化の関連施設もあることから、このエリアでは自然・歴史・文化を体験するエコツアーを観光の基本とするのが適していると考えます。

嵐山の縦走ツアーはこの地域を体験するうえで重要なコンテンツとなるが、江丹別

側のウバユリ峠のスタート地点には車が4、5台停車できる場所が無く危険な面もあるので、駐車場の整備をお願いしたい。

(市長)

チセの宿泊体験は課題も多いと思うが、是非検討を進めクリアしていきたい。

縄文遺跡は神居古潭にもある。2つ合わせれば大分ちがう。

工房や茶道など、北の嵐山の体験にはどれぐらいの観光客がきているのか。また、体験内容によっては、受入れは大変か。

(参加者)

ビジターセンターはイベントの開催時には人が来るが、通常の集客は少ない。

(参加者)

工房体験を実施しているのは3件ぐらいになってしまい、うちの工房では修学旅行も含めると500人程度。体験内容によっては時間が割かれるので大変だが、スタッフに手伝ってもらいながら対応している。

(市長)

観光拠点の整備という面では、この嵐山公園センターを活用するのも面白いと思う。

現在、北の嵐山エリアに民泊施設はあるのか。

(参加者)

無い。

(市長)

「嵐山地区連絡会」の活動に際し、市民委員会との連携はあるか。

(参加者)

嵐山地区連絡会自体は発足したばかりなので、地域住民との連携はしていないが、これからは静望地区の住民にも理解を得ながら活動を進めていきたい。

(市長)

是非、市民委員会や地域住民と一体になって活動してほしい。地域と一緒に活動することで子どもたちや若い世代の誇りや郷土愛の醸成につながるし、旭川やこの嵐山地区を好きになってもらえる。

(市長)

看板の話があったが、市として管理状況を把握する。

旭川市ではデザイン都市としてデザインを統一していこうと考え、今後はデザインシステムを活用しながら、地域の方のお話を聞き、色使いやデザインなどで統一感を出していきたい。

ほかに課題があれば伺いたい。

(参加者)

縄文遺跡のところに道を付けてほしいのと、国見の碑のような標識や写真などを使った説明板を設置してほしい。

1990年に旭川市開基100年記念事業の一環として17名の委員による激しい議論の末にまとめられた嵐山公園基本構想報告書を、嵐山の活性化の基本とする必要がある。

(参加者)

公園センターでは外国人観光客も増えており、展望台へのアクセスが人気。受入体制としてヒグマやエゾシカ対策などに時間が割かれていることから、少しでも改善し、この北の嵐山地域の受入体制を良くしていきたい。

(参加者)

旭川市での自然環境調査は35年ほど実施されていないので、自然環境の調査を始めたい。その先の取組として、旭川市の絶滅危惧種の指定など保全対策を進めたい。

(参加者)

先にも話したがこの狭い地域でさえも、看板のデザインがバラバラで統一感が無い。看板は一例であり、デザインを考えるとき、特定のセクションではなく全体として、広い視点で考えてほしい。デザインの部署を組織の上位に設立し、旭川のデザインを長期的な視点から協議できるようなシステムを作ってほしい。

(参加者)

旭川市はデザイン都市として、取組を進めているのは理解している。一方で、行政では人事異動によりリセットされる面があるので、行政運営の面でもデザイン思考を取り入れながら、トータルで運営を進めていただければ、より様々な事業に統一感を持って取組を進めることが出来ると思う。

(8) 市長総評

(市長)

今日は色々な提案をいただいた。

嵐山は国見の碑から始まって、縦走トレッキングから自然を学び、工芸を体験、ア

イヌ文化を感じる事が出来るまさにATの宝庫であり、DMOの出番となる。

この地域にもっと光を当て皆様と連携すべきと考える一方で、嵐山地区連絡会のような会議体がこれまで無かったのは意外であったし、市として後押しが足りなかったことは、反省点としてあげられる。行政が前面に出ても上手くいかないことが多いため、全力で後押しさせていただく。

今日は夢のある話を聞かせていただいた。これからは、胸襟を開いて皆様と協議しながら、まちづくりを進めていきたい。

今日はありがとうございました。